

高齢者用市営住宅における亡くなられた入居者発見の遅延について

1 概要

高齢者用市営住宅において、ベッド上でお亡くなりになられて数日を経過したと思われる入居者が発見されました。

この住宅は緊急通報システムが設置されており、通常は、①緊急ボタンが押された場合、②センサーにより人の動きがない状態が12時間続いたことを検知した場合、警備会社へ通報されます。このたび、センサーの異常により通報がされず、発見が遅れたものです。

2 亡くなられた方

当該住宅に入居されている70歳代の女性

3 場所

横浜市保土ヶ谷区内の借上型^{※1}市営住宅（SHP住宅^{※2}）

※1 借上型市営住宅

民間の土地所有者等が建設した共同住宅を横浜市が借り上げ、市営住宅として供給する住宅。その内、高齢者向けに整備された住宅をSHP住宅として供給。

※2 SHP住宅（シルバーハウジング・プロジェクト住宅）

住戸内の段差が解消されているなど、高齢者向けの配慮がなされ、生活援助員の派遣及び緊急通報システムを備えた高齢者向け住宅。

4 センサー異常の原因

現在、緊急通報システムのメーカーにおいてセンサーの異常の原因を調査しています。

5 経過

令和4年9月7日（水）

11：10頃 生活援助員が定期的な安否確認のために電話及び訪問するが応答なし。
システムの監視盤には入居者は「在室」と表示されていたため、緊急連絡先（親族）へ連絡し入室の了承を得る。

11：35頃 生活援助員及び警備会社の警備員が入室し、ベッド上で倒れている入居者を発見。

11：50頃 救急隊が到着し死亡を確認。

12：15頃 保土ヶ谷警察署員が到着し現場を確認。

14：10頃 横浜市建築局市営住宅課が第一報を受ける。

9月7日（水）～9月15日（木） メーカーがシステムの詳細調査を実施。

9月16日（金）

17：00頃 メーカーからの報告により、センサーの異常であることを確認。
その他の設備は異常なし。

6 その他

メーカーによるシステム点検を1年に1回実施しており、直近の点検は7月1日に実施しています。その時点では異常はありませんでした。

お問合せ先

建築局市営住宅課担当課長 小林 達 Tel 045-671-3665